## 北陸新幹線、ビジネスもつなぐ 福井駅前にオフィス進出 2024新幹線延伸 変わる北陸 開業半年の景色®

2024/9/18 5:00 日本経済新聞 電子版



福井コンピュータHDなど、郊外に本社をおいていた地元企業が駅前に進出している(7月、ビジョナリーハブフクイ)

福井県に新幹線が開通し、ビジネスでも首都圏との関わりが一段と増えた。福井からの東京出張へ北陸新幹線を使う機会が増え、東京法人の買収や東京への本社移動といった地元企業の動きも出てきた。沿線の市役所では新幹線利用を促す動きがあるほか、駅前オフィスや新幹線通勤も増えている。

「新幹線の開業で、首都圏の人口とビジネスチャンスの威力を福井の経営者たちが実感し始めた」。福井県の税理士法人、日本綜研(福井市)の岡田芳明理事長はこう語る。首都圏と新幹線で直通になって以降、県内の企業から首都圏での事業について相談を寄せられるケースも増えてきたと話す。

日本綜研は9月1日付で東京都の税理士法人、日の出事務所を傘下に収めた。東京方面のコンサル能力を高める必要があると判断し、首都圏の顧客やノウハウを持つ人材や事務所を取り込んだ。買収の際は競合も発生したが、東京の拠点名に日の出事務所の名前を残すなどの配慮もし、統合を実現したという。



日本綜研は東京の税理士法人を取り込んで首都圏の事業を強化する

<u>飯田グループホールディングス</u>(GHD)子会社で福井県地盤のファーストウッドは、23年に本社を福井市から東京都武蔵野市へ移した。福井市の旧本社は本店として営業する。親会社やグループ企業連携のため都内へ拠点を移したが、新幹線の開通で福井本店と本社のアクセスや連携もスムーズになると期待する。

郊外に本社が多かった地元企業が駅前に拠点を置く動きも進む。<u>福井コンピュータホールディングス</u>(HD)は7月に福井駅前で新オフィス「ビジョナリーハブフクイ」を立ちあげた。同社は群馬県前橋市にデータセンターも建設しており、同地や首都圏とのアクセスが良い駅前に本社機能をつくる。

北陸銀行は26年以降、JR富山駅から1キロ以上離れている本店を駅近くに移転する。 敦賀延伸で石川県・福井県が新幹線移動で通勤圏となった。石川県と福井県で暮らす 地域限定型総合職に富山市の本部勤務を経験させる人事制度「チャレンジ・ジョブ」 を進める一方、人事異動でも本部配置を拡充する狙いだ。 北国フィナンシャルホールディングス (HD) は2015年の北陸新幹線開業に合わせて 社員の新幹線通勤を認め、費用を負担している。3月の敦賀延伸で利用者は従来の4倍 にあたる約40人になった。「通勤時間を短縮してより働きやすい環境をつくる」とし て延伸を社内の生産性向上に生かす。

金沢駅を起点に加賀温泉駅(石川県加賀市)以西、新高岡駅(富山県高岡市)以東の駅から利用を認める。延伸後は金沢駅をまたぎ小松駅(石川県小松市)と富山県内の駅との間の利用もあるという。<u>福井銀行</u>も6月に金沢市在住の職員が同行本店(福井市)で約1カ月勤務に就いた際に新幹線を使う例があった。

首都圏と新幹線でつながった利便性を維持しようと、自治体が新幹線活用を促す事例もある。越前市は職員に対し「出張時の合理的なルートは、金額だけでなく時間的コストも勘案する」と通知している。

| 首都圏との関わりで福井の企業に変化 |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 日本綜研              | 都内の税理士事務所を<br>買収        |
| ファースト<br>ウッド      | 本社を福井県から東京<br>都に移転      |
| 福井コンなど            | 駅前に新しい拠点を開<br>設         |
| 福井銀               | 首都圏での対面の営業<br>を拡大       |
| はや川、<br>PLANT     | お土産需要に訴求でき<br>る商品を開発、販売 |

同市から東京へは在来線と東海道新幹線を使う方が北陸新幹線より安いが、例えば通過駅の多い「かがやき」を使うなど、乗り換えや所要時間が適切であれば北陸新幹線

も使えると明確にした。越前たけふ駅はターミナル駅ではないが「かがやき」が2往復停まる。職員の活用促進で乗降客数を増やし、停車本数の維持につなげる考えだ。

福井銀行でも新幹線出張は増える見通しだ。首都圏のビジネスマッチングや取引先支援の需要が想定され、対面のやりとりも重視する。同行の広報担当者は「今までは移動時間の関係で出張をあきらめる例もあった。北陸新幹線のおかげで首都圏の案件にも参加しやすくなる」と期待する。



東京・銀座のアンテナショップでは福井で体験した食材などを求める人が増えた

延伸をきっかけに福井の産品も東京で注目が集まる。代表的な福井土産で、はや川 (福井県勝山市)が製造する和菓子の羽二重くるみは東京・銀座の福井県アンテナショップでも売り切れが続出している。もともとは福井にゆかりある人の来店が多数だったが、福井観光をきっかけにご当地品を東京でも求める動きが出てきた。

福井県生まれの小売企業、PLANTは新幹線開業に合わせて即席焼きそば「ペヤング」のまるか食品(群馬県伊勢崎市)と組み「福井名物ソースカツ丼風やきそば」を売り出した。福井市のソースカツ丼の名店「ヨーロッパ軒」の監修を受けて開発し、売れ行きは好調だという。県内旅館の売店などに贈答3個セット品を卸し、福井旅行のお土産需要も狙う。

## (津兼大輝)

©日本経済新聞社 無断複製·転載を禁じます

許諾番号30100604 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。